

環境犯罪学および社会心理学から 内部不正をどのように考えるか

高木大資

東京大学大学院医学系研究科

環境犯罪学・社会心理学からのアプローチ

- 環境へのアプローチ
- 不安全行動へのアプローチ
- 犯罪者の視点へのアプローチ

環境犯罪学

- 犯罪者と非犯罪者の間に大きな人格的差異はないと考える
- 日常生活の中で犯罪機会に遭遇した場合に、犯罪を行う人が「常に存在しうる」と仮定し(＝犯罪機会論)、それらの潜在的犯罪者に犯罪の機会を与えない
- 環境の設計によって、犯行に都合の悪い状況を作り出す
- 機会があれば人は犯罪を行うという性悪説(性弱説)を前提としている

環境犯罪学の理論

- 状況的犯罪予防 (Cornish & Clarke, 2003)

	5つの犯罪予防対策
①	犯罪者の手間の増大
②	リスクの増大
③	見返りの減少
④	挑発の削減
⑤	言い訳をさせない

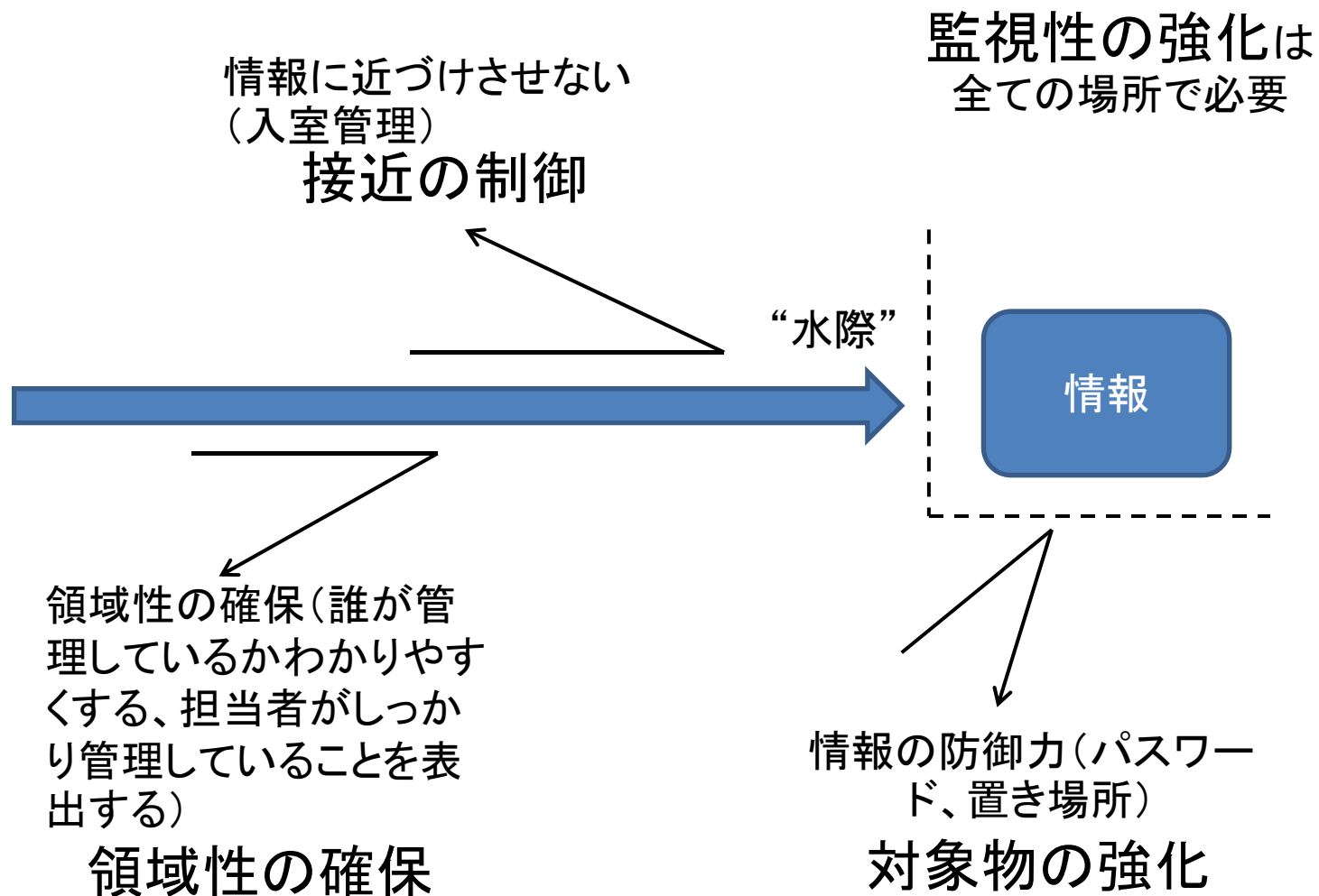
ITセキュリティへの応用 (IPA, 2012)

犯行を難しくする	捕まるリスクを高める	犯行の見返りを減らす	犯行の挑発を減らす	犯罪を容認する言い訳を許さない
1. 犯行対象を防御的に強化する ・スクリーンロックの設定 ・アクセス制御の設定 ・退職者の ID 削除/確認者設置 ・パスワードポリシーの設定 ・PC の物理チェーンロック、固定具 ・盗用防止スクリーン	6. 監視者を増やす ・複数人での作業環境の設定 ・防犯ベルの設置 ・特権階級の分散化/管理者の増員 ・個人情報売買の監視 ・アクセスログの監視	11. 標的を隠す ・電子ファイルのアクセス権限の設定 ・PC/USB メモリの保管場所設定	16. 欲求不満やストレスを減らす ・職場での円滑なコミュニケーションの推進 ・上司や同僚に頻繁に相談できる環境整備 ・適切な人事・作業管理 (業務量の軽減)	21. 規則を決める ・情報セキュリティポリシーの策定 ・個人情報管理策の作成 ・就業規則 ・障害対策等の手順の明確化 ・管理/運用策の策定 ・雇用契約
2. 施設への出入を制限する ・ID カード (身分証明) の確認 ・電子カードアクセス ・手荷物検査	7. 自然監視を補佐する ・守りやすい空間の設計 (外部から見えるガラス面積の拡大) ・オフィスのフリースペース化 ・投書箱による密告者をサポートする	12. 対象を排除する ・電子ファイルのアクセス権限の設定 ・PC の持込許可制度 ・業務上で必要な閲覧項目を絞る ・紙の廃棄/溶解処理	17. 対立を避ける ・情報セキュリティの管理部門を設置し、上司との対立を避ける ・適切な人事・作業管理 (業務量の軽減)	22. 指示を掲示する ・情報セキュリティポリシーの掲示 ・個人情報管理策の掲示 ・就業規則の掲示 ・目的外利用の禁止の掲示 ・不正事例の掲示 (匿名)
3. 出口で検査をする ・ID カード (身分証明) の確認 ・手荷物検査 ・メールやネットの監視	8. 匿名性を減らす ・ID カード、社員バッジの携帯 ・ID による管理 ・持ち出し台帳による管理	13. 所有物を特定する ・PC/USB メモリに登録番号シールをつける ・電子ファイル/紙ファイルに管理番号をつける ・複写台帳管理	18. 感情の高ぶりを抑える ・バフハラの禁止 ・人種的中傷の禁止 ・適切な人事・作業管理 (業務量の軽減)	23. 良心に警告する ・持ち出し厳禁であることを掲示 ・管理レベルを表示/印字 ・不正競争防止法などの研修・教育 ・ルール厳守への自己サイン
4. 犯罪者をそらす ・通路/出入り口の閉鎖 ・物理レベルに応じた入退制限 ・金属探知器	9. 現場管理者の利用 ・CCTV (監視カメラ) の設置 ・機密情報へのアクセスは複数人による作業制限	14. 市場を阻止する ・不正競争防止法 ・不正監査/不正検査 ・個人情報売買の禁止/監視	19. 仲間からの圧力を緩和する ・適切な人事・作業管理 (業務量の軽減)	24. 遵守を補佐する ・利用 PC/USB メモリの登録管理/貸出規則を簡単にする ・施錠保管キャビネットの設置 ・シュレッダーの設置 ・相談窓口の整備
5. 道具や対抗手段を制御する ・非登録の PC/CD/USB メモリの持込/持出/書出し禁止 ・携帯電話の持ち込み禁止 ・メールやネットの利用制限・禁止 (フィルタリング等)	10. フォーマルな監視体制を強化する ・侵入警報装置 ・警備員	15. 利益を否定する ・重要情報の暗号化 ・重要情報にノイズや電子透かし各種ウォーターマークを注入	20. 模倣犯を阻止する ・インシデントの手口の公開を慎重にする ・インシデントの証拠を残さない	25. 薬物・アルコールを規制する ・職場での飲酒禁止/検査 ・アルコールなしの行事

CPTED (Crime Prevention Through Environmental Design) (Crowe, 2000)

- ① 対象物の強化
 - 被害対象となることを回避（犯罪の誘発要因の除去、対象物の強化）
- ② 接近の制御
 - 被害対象者に近づきにくくする（“出入り”の管理）
- ③ 監視性の強化
 - 多くの人の目を確保（“見通し”の確保）
- ④ 領域性の確保
 - コントロールが及んでいることを示す（“管理”されていることを明示）

CPTEDの基本的な考え方 (竹花他(2007)をもとに改変)



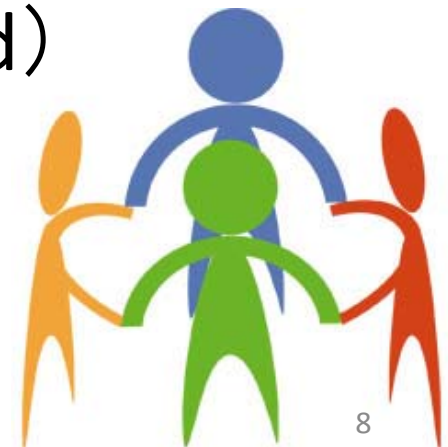
第二世代CPTED

(Cozens et al., 2005; Reynald, 2011)

- 従来のCPTEDに、
 - コミュニティの社会的凝集性 (social cohesion)
 - 組織内外のグループとの連携・協調 (connectivity)
 - 組織の文化や場所性 (culture)
 - 多様性、密度などの閾値 (threshold)

を追加

Cozens, P. M., Saville, G., & Hillier, D. (2005). Crime prevention through environmental design (CPTED): A review and modern bibliography. *Property Management*, 23, 328-356.
Reynald, D. M. (2011). Translating CPTED into crime prevention action: A critical examination of CPTED as a tool for active guardianship. *European Journal on Criminal Policy & Research*, 17, 69-81.



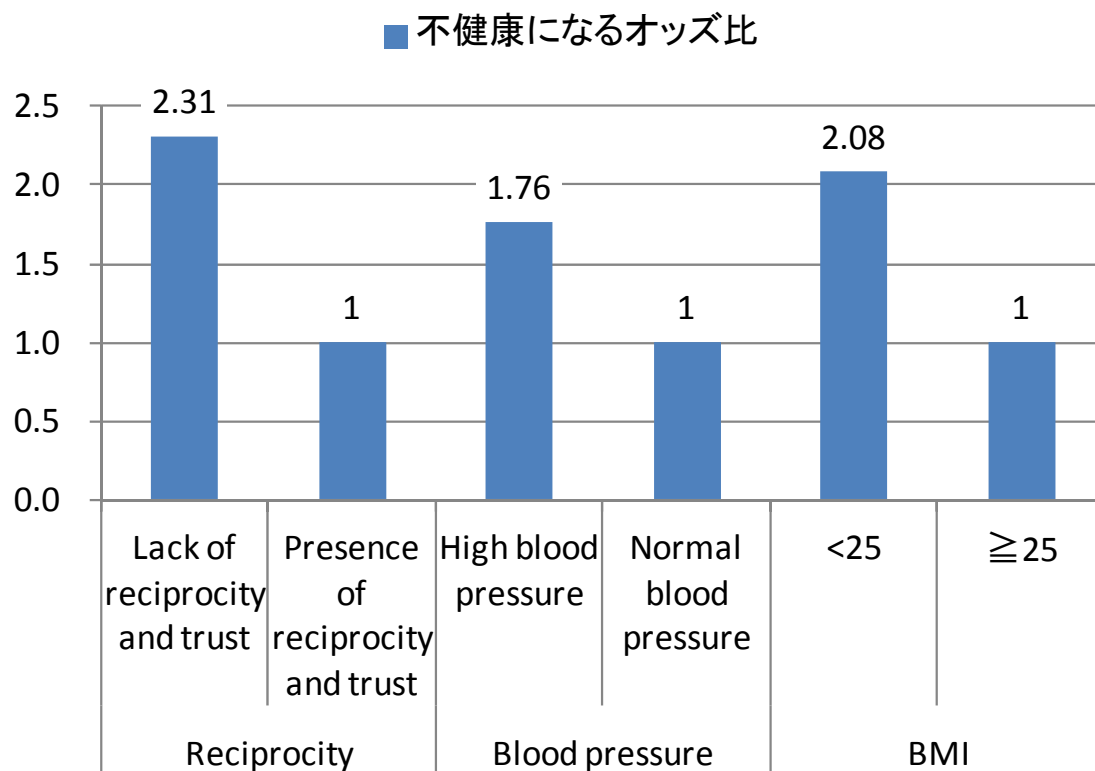
Does low workplace social capital have detrimental effect on workers' health?

Etsuji Suzuki ^{a,*}, Soshi Takao ^a, S.V. Subramanian ^b, Hirokazu Komatsu ^{a,c}, Hiroyuki Doi ^a, Ichiro Kawachi ^b

^a Department of Epidemiology, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, Japan

^b Department of Society, Human Development, and Health, Harvard School of Public Health, Boston, MA, USA

^c Division of Community Care, Saku Central Hospital, Nagano, Japan



- 職場の人を信頼していない人は、そうでない人と比べて2.31倍不健康になる確率が高い
- その効果は、高血圧や肥満よりも大きい

他者への信頼は、「ソーシャル・キャピタル」とも呼ばれる⁹

環境犯罪学・社会心理学からのアプローチ

- 環境へのアプローチ
- 不安全行動へのアプローチ
- 犯罪者の視点へのアプローチ

不安全行動へのアプローチ

- 不安全行動は、被害者兼加害者を生み出す
 - e.g., USBメモリの持ち歩き、危険サイトへのアクセス
 - なぜ人は、どれだけ注意を受けても不安全行動をとるのか
 - たとえば、適切なマニュアルを作成しても、不安全行動は減らない
- 人の意思決定過程は非合理的なので当然

Sympathy and callousness: The impact of deliberative thought on donations to identifiable and statistical victims

Deborah A. Small ^{a,*}, George Loewenstein ^b, Paul Slovic ^c

条件1

- マラウィの食糧危機は300万人の子どもに影響しています。
- ザンビアでは干ばつにより300万人が飢餓に直面しています。
- アンゴラでは国民の3分の1の400万人が難民となっています。
- エチオピアでは1100万人以上の人々が緊急食糧援助を必要としています。

Save the Childrenはこういった地域の子どもたちのために働いています。

条件2

この子はロキアちゃん。アフリカ・マリ共和国に住む7歳の女の子。家は極度に貧しく、飢餓の危機に瀕しています。彼女の状況はあなたの援助で大幅に改善されます。

Save the Childrenは、彼女に食糧と医薬品、さらには教育の機会を与えるために働いています。



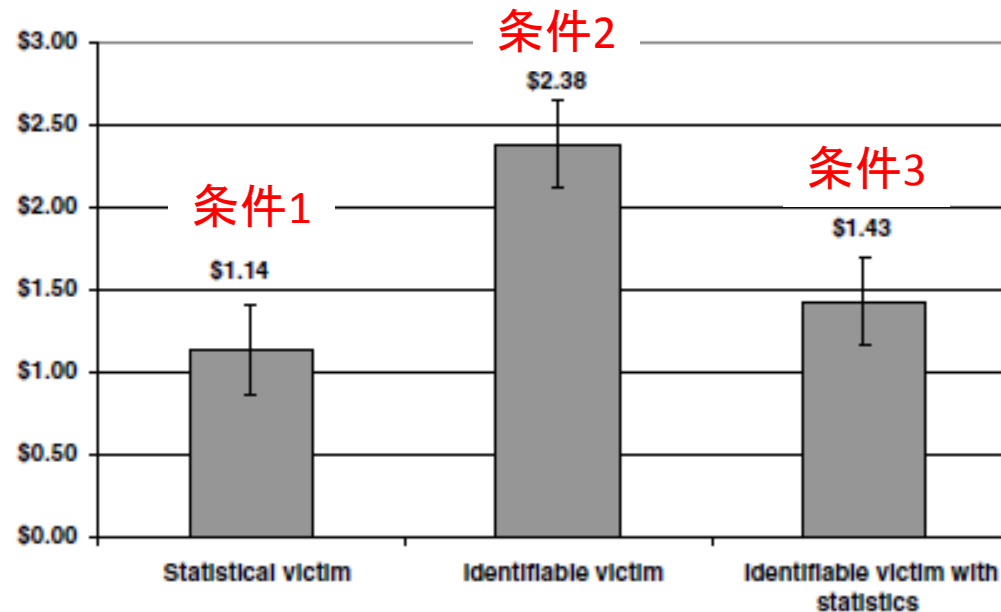
条件3

両方を提示

あなたはいくら寄付をしますか？

Sympathy and callousness: The impact of deliberative thought on donations to identifiable and statistical victims

Deborah A. Small ^{a,*}, George Loewenstein ^b, Paul Slovic ^c



- 統計情報は援助意思に寄与しなかった
- なぜか？→二重過程理論 (Stanovich & West, 2000) による説明 (中谷内, 2013)

Stanovich, K. E. & West, R. F. (2000). Advancing the rationality debate. *Behavioral & Brain Sciences*, 23, 701-717.

中谷内一也 (2013). リスクの測定とリスク認知: 逆方向の乖離. KSP400回記念シンポジウム.

二重過程理論

(Stanovich & West, 2000)

経験的システム(システムⅠ)	分析的システム(システムⅡ)
全体論的な感情志向	分析的な論理思考
快－不快の感情を基盤とする	理性、論理を基盤とする
連想による事象の関連づけ	論理による事象の関連づけ
過去経験の感触をもとに行動	対象への評価に基づき行動
具体的なイメージや暗喩、物語により現実を構成する	抽象的な表象や言語、数値により現実を構成する
即座行動への素早い情報処理	後の行動のための丁寧な情報処理
自分の感情、経験を信じる	証拠と論理に基づく正当性を求める

環境犯罪学・社会心理学からのアプローチ

- 環境へのアプローチ
- 不安全行動へのアプローチ
- 犯罪者の視点へのアプローチ

犯罪者の“合理性”はどこまで本当か？

- 「犯罪者は彼らの目的を達成するために多少なりとも合理的に説明可能なプロセスで、犯行の標的や集団を選択している」、という**合理的選択理論** (Cornish & Clarke, 1986) が前提→本当？
 - 衝動性に基づいた犯行は想定していない
 - 職場の内部不正の文脈では？
 - 技術・知的水準が高い犯行者
 - 怨恨による衝動的な内部不正
- 不正者の心理・行動特性のデータ分析が必要

Journal of Environmental Psychology (1989) 9, 193–205

TERRITORIAL CUES AND DEFENSIBLE SPACE THEORY: THE BURGLAR'S POINT OF VIEW

JULIA E. MACDONALD and ROBERT GIFFORD*



- 侵入者は左側を“侵入しやすい”と感じる傾向
- 物理的な障壁はむしろ道路からの視認の妨げに
→ 侵入盗犯罪者の意思決定のパターンを参考に防犯

※写真の出典: Shaw & Gifford (1994). Residents' and burglars' assessment of burglary risk from defensible space cues. *Journal of Environmental Psychology*, 14, 177-194.

まとめ

- 環境へのアプローチとして、状況的犯罪予防、CPTEDなどの環境犯罪学理論を内部不正抑止に応用する試み
- 不安全行動へのアプローチとして、人の情報処理の仕方に合った“説得”の考案。全員に一律な教育・研修方法・マニュアルではカバーできない。
- 不正者が何に注目しているかはまだあまりエビデンスがない。一般の人々と異なる可能性は大きい。不正を行った者への調査が必要。